

分度器、手づくりものさし



困り感 具体物を使って

「先輩のワザ伝授連続講座」第3回が6月15日行なわれ30名が参加しました。今回は算数の講座で講師は何森真人さん(岸和田市小学校教師)。数学教育協議会やサークルの活動で研究されていきます。まずはクリアファイルを使って半透明のかんたん分度器作り。透明の分度器では集中することが難しい児童の存在が考案のきっかけとなったそうです。

場が和んだところで算数の基礎的な考え方についてのお話。参加者はゲームを通して「数字(1、2、3)」と「数詞(いち、に、さん)」と「もの(具体物)の数」を一致させることの難しさを体験したり、商の表し方を考えることから連続量と分数量について考えたりしました。また、「かけ算」や「長さ」、「平均」の導入についても学びました。

さらに子どもの「困り感」をのりこえるとして、使いやすさのさし(手作り)やコンパス、理解をたすける教具や道具も使いながら楽しさを有効性を実感しました。また参加者の疑問や悩みを出し、アドバイスももらいました。

3時間があっという間、まだまだ聞きたい学習会となりまりました。

○高学年の勉強ってこんなに難しかったっけ?と毎日困惑しながら授業をしています。何森先生の作られた教材は、大人でもなるほど!と思えるものばかりでした。困り感を抱えている子どもたちにも「分かった!」と思わせることができるように授業の中でも工夫や導入の仕方を考えたいと思います。(新採用者)

○楽しんで分かりやすい授業をするため

にはどうしたらいいのかということをするべく感じた講話でした。ベテランの先生かできないという内容ではなく、若手でも真似してみようと思える内容でした。(3年目)

○今日はありがたうございました。すごく面白かったです。自分の授業をもう一度見直して算数の本質的な部分を勉強しなければいけないと思いました。(新採用者)

○とにかく教科書をこなすことに必死になっている自分に気がつきました。でも学力がしんどい子が多いからこそ具体物を使って操作をしながら中に入れていく作業をサボってはいけません。1人ではムリ、1人ではムリくり返し子ども達とともに学ぶ大切さを忘れないようにしようと思えました。(11年目)

生野区

学校跡地を民間に

「構想」は撤回せよ

生野区は6月13日ホームページに、「生野区西部地域の学校跡地を核としたまちづくり構想」を公表しました。教室を賃貸住宅や飲食店舗に、体育館をホームセンターや販売所に、運動場を貸農園に活用するなどとし、「みんなの学校」と名づけています。「学校再編の議論と並行して学校は無くなるのではなく『みんなの学校』となり、多世代・多文化・すべての人が関わる生野区独自の『町ぐるみ教育』が実現するという構想」としています。学校跡地を学校活用会社(民間事業者)に委ねるにもかかわらず、学校は無くなるという住民をだますものです。

学校統廃合の真の狙いは学校数と教員数の削減による財政効率化です。さらに「地方公共団体における公的不動産と民間活力の有効活用」(総務省)として、民間事業者は安く公有地を活用できることとなります。

学校は次代の子どもを育てる場であり地域自治の拠点であった学校を民間資本の活用によだねるのは、学校を中心としたまちがまち単位で崩壊する危機を意味します。学校は地域の歴史的文化的財産であり、行政はそれ

を住民から付託されているのであって、勝手に処分してよいわけではありません。

「生野区西部地域学校再編整備計画(案)」は、不正常な運営で一方的に進めるのではなく、いったん立ち止まり、区民の声を聞き話し合うことを求める陳情書」が5・6月市会に提出され、教育子ども委員会でも「継続して審査」の扱いとなっています。「構想」は撤回しな

スマイルが大事

教採突破講座

教採突破講座第2回は6月8日(12人参加)、第3回は22日(9人)に行われました。多くの組合未加入の講師も参加しました。また、支部や専門部からも多くのスタッフが参加しました。

講座では、「合格するエントリーシート」の書き方、「面接試験の心構え」(第2回)、「炎の21日間」を、面接官の心をつかむ面接に「(第3回)の講義を行い、面接の向けての心構えでは「面接官の心をつかむにはスマイルが大事」との先輩教員からの話に多くの受講生が納得しました。

次に本番を想定した面接練習を行いました。試験直前の第3回では、実際の1次面接を想定した練習や1次免除者に向けた2次面接・場面指導対策も行いました。

受講生からは「繰り返し練習すること自分の考えがまとまっていきました」など多くの感想が寄せられました。次回、2次面接対策を行います。

大阪市をよくなる会

市民との共同で 大阪市廃止許さない



大阪市をよくなる会は6月20日年次総会を開き、市民の共同を広げ、24区の自治を進展させ大阪市廃止・解体を許さない運動方針を確認。カシノ誘致に反対する世論を広げる、国民保険料・介護保険

料の負担増をやめさせる運動等も提起しました。

大阪市教は「昨日チャレンジテストが実施された。大阪市のうち3年生は年間13回のテスト。小学校から学力経年調査でテスト漬け。子どもも

専門部総会

～夏の予定～

- 教採突破講座④二次対策
7月20日(土) 14時
アネックスパル法円坂
- 原水爆禁止世界大会
8月7日～9日(長崎)
- 全国臨時教職員学習交流集会
8月10日～12日(千葉)
- 教育のつどい全国集会
8月16日～18日(滋賀)
- 大教組夏期学校
8月19日(月) 10時
たかつガーデン
- 北大阪・城北サマーフェスタ
8月20日～21日
- 日本母親大会
8月24日～25日(静岡)

事務職員部

事務職員部は6月8日、賑やかに活気のある総会を開催しました。討論では、実務のこと、配置のこと、パワハラのことなどほぼ全員が発言出来ました。

「分校もひとつの学校、予算配当基準を見直すべき」「看護師の鉄道キャンセル料の出所はどうなる」「講師が共済に加入したら児童手当も連動するシステムにして」「郊外校は通送に時間がかかる、卒業証書の確認はデーターにして欲しい」「児童数940人は2人校なのに1・5人配置、定数を守るべき」「徴収金の納入を希望者には年一括にしている」「銀行の統廃合が増えた」「教頭が2人倒れて3人目、高ストレス職場トップ10に入る」等々討論を聞いて、来賓の大教組事務職員部事務局長も校方と比べて大阪市の酷さにはびっくり仰天。総会の意見は、要求書・交渉へ生かしていきたいです。

女性部

女性部総会を6月22日に行いました。最初に、「一年単位の變形労働時間制」についての学習会をしました。長期休業中に休みをまとめて取りし、通常期は、長時間労働になりかねない危険な中教審の答申です。教職員定数の抜本的改善によって長時間過密労働を解消することを目指し、全教は、「せんせい ふやそう」のネット署名を開始しています。

総会では、労働条件の改善、定員増員、新人事評価制度、憲法と平和を守るための強化する方針を決定しました。

討論では、「校長の無責任な対応で病休に追い込まれた職員へのえこひいきをしていることを公言する校長」「妊娠中にプ

青年部

6月21日(金)に青年部総会を行いました。昨年度の取組として、しんかんフェスタや先輩のワザ伝授(学級開き、エイサー、音読)、ピースタディ(憲法読破、はにわの森自然体験)などの学習会について報告しました。そして今年度の取組として、どんなことが学びたいかを話し合い、次回の先輩のワザ伝授を企画することになりましたので楽しみにしてください!

また、それぞれの学校の様子や悩みなどを交流する中で、青年が青年とつながっていく大切さを改めて感じました。青年教職員を取り巻く仕事環境は悪化し続けています。だからこそ青年が悩みを共有して学び合い、現状を変えていく力になりたい。これからのともにがんばりましょう!